

Soundscape(サウンドスケープ)とは、音(sound)と、日常生活における風景や景色を構成する諸要素(landscape)を組み合わせた造語。音風景。カナダの作曲家マリー・シェーファーが提唱した概念です



日々の風景「昼食時間 黙食」

生徒会では毎日、一方向を向いての黙食の徹底を放送で呼びかけています

4月に本校に着任いたしました校長の鳥谷越浩子です。教員生活35年、北信での勤務が長く松本勤務は子育てを始めた30年近くぶりになります。おらかな土地柄にびっくりしたり懐かしんだりしながら、慌ただしい中で生徒の活動に目配り気配りし、あつという間に6月を迎える頃となりました。季節は雨期。肌にじっとり湿気がまとわりつく季節がやってきました。行事満載の6月はさまざまな生徒の姿が見られることを楽しみにしながら引き続き感染対策を講じた学びの活動を進めてまいりたいと思っております。文化活動が盛んな本校で、生徒に身に付けてほしい姿など、芸術教員である私の視点から、見える風景や感じたことなどを、この紙面を使いお伝えしていこうと思います。

思いやりの風景

先日、蟻高生の思いやりあふれる姿に、心温まるお電話やメールをいただく出来事がありました。電車の中で、周りを気遣いリュックを前に抱いて乗車する姿に、素晴らしいマナーだ！と、思わずメールしましたという声。また、店舗のガラスに突撃しぐったりしていた鳥を何とか生き返らせてあげたいとネットで検索しながら心配してくれた生徒がいて嬉しかったというお店の方からのお電話。殺伐とした世の中、自分さえ良ければと考えがちな風潮の中、周りに目を向けられる生徒がここにいるという現実、私自身が自分の行動をあらためて振り返らなければと思うきっかけでした。始業式の折、私は「たった一人の地域から疎まれる行動があれば840-1=ゼロになる。そして残念な評価としてしばらく消えることはない」という話をしました。自分がやるべきことを自然に行動に移せる。これはご家庭で育てこられた日頃の習慣や社会教育を通じて得てきた体験からの賜物です。SDGsの取り組み目標のゴールは2030年。2015年の国連採択から7年、いち早く未来都市に制定された長野県の取り組みは、今私たちにも身近になり、住みやすい街づくりや他と共存し穏やかに過ごせる地域づくりに向け、さまざまな取り組みも浸透しています。ほんの小さな行動が未来を変えていきます。気づきの「目」を忘れず日々生活したいですね。運動部の皆さん、総体地区大会、県大会お疲れ様でした！全力で壁と向き合った時間は一生の宝です。北信越にコマを進めた皆さん、もう1つの大きな山に、また全力で立ち向かってきてください！

連絡...お願い...連絡

感染レベルは下がりましたが感染対策は変わりません。生徒たちには引き続き「一方向を向いての黙食」をお願いしています。文化祭が開催できるためには感染者の拡大を避けなければなりません。ご協力をお願いいたします。

コロナ禍でのぎんが祭☆彡

ぎんが祭の開催そして公開に向けては生徒たち自らがガイドラインを決め少しでも活動を皆様に見ていただけるよう方策を検討しています。校内の密を回避できるような例年の50パーセント収容を計算し、お客様の飲食は無し、「ご家族3名」入場に漕ぎつきました。コロナ禍だからできること、そしてコロナを経験した自分たちにしかできない文化祭を！生徒たちのこの姿勢をぜひ応援いただきたいと思っております。